

新年祭・立教記念祭 理事長挨拶

輝かしい新たな年の幕開けに際しまして、謹んでご挨拶申し上げます。
新年、明けましておめでとうございます。

万物全てに清新の気漲る元旦を迎え、聖地・瑞雲郷におきまして、「新年祭・立教記念祭」を執り行わせていただきました。

本年も、天地万物一切の創造主であり、私共の本当の親であられる主神に対しまして、明主様と共にあるメシアの御名にあって、神の子たるメシアとして「新しく生まれる」ための養いを賜り、“想念の御用、をもって全てのご神業奉仕にお仕えさせていただける感謝と決意をご奉告申し上げ、新たな年の事始めとさせていただきます。

全国の信徒の皆さまにおかれましては、ご清祥のもと希望にあふれる初春を迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、本年も、明主様がおっしゃった「地上天国建設」「人類救済」「真文明創造」という御言葉に込められた本当のみ心と、その源にある主神のご意志を誰よりも強く求められ、何があっても明主様のご意志を受け継ごうとされている教主様のご教導にあずかり、全国の専従者、信徒の皆さまと共に「全く新しい信仰」の道を歩ませていただきたいと存じます。

そして、そのために、私は、明主様をご在世中の最後にお示しくくださった“神の子たるメシアの道、こそが、明主様から世界救世教信徒に託された「地上天国建設」の道であると信じて、“一意専心、の思いでお仕えさせていただく覚悟を固め、本日の「新年祭」において心新たにお誓い申し上げます。

さて、本日私共は、「新年祭」に併せて「立教記念祭」を執り行わせていただきました。

私は、昭和10年1月1日の本教の立教に思いをはせる時、明主様をご立教直後に発表された御言葉をもとに、教主様がお示しくくださった「光のお言葉」がいつも強く心に浮かんでまいります。

神は光にして光のあるところ
平和と幸福と歓喜あり
無明暗黒には
闘争と欠乏と病あり

光と栄えを欲するものは来れ
来りて
メシアの御名を
奉称せよ
さらば救われん

私は、毎年「立教記念祭」を迎えるたびに、この明主様からの天国への呼び掛けに、少しでもお応えさせていただかなければと、決意を新たにさせていただきます。

さらに、私は、本年の「立教記念祭」に臨ませていただくにあたり、“もう一つの立教、とも言える、昭和25年2月4日の「世界救世(メシヤ)教」の開教についても、そこに込められた明主様のみ心を受け止めさせていただくことが、極めて大切ではないかと思わせていただきました。

本年の「教団方針」には、次のように記されています。

明主様が、本教を「世界救世(メシヤ)教」として開教宣言をされたことを、私共は重く受け止めさせていただかなければならないと存じます。

明主様は、

『どうしても一大飛躍によって全人類を救わなければならない、とすれば世界的に拡充する必要がある、世界救世(メシヤ)教の名による所以である』

(開教の辞 世界救世(メシヤ)教の誕生について 昭和25年2月4日)

と、言明されています。そして、「メシヤ教」開教後、明主様は、「メシアの救い」「メシアの力」「メシアの教え」等々「メシア」について繰り返しみ教えになっておられます。明主様が「メシア」について繰り返し言及されたということは、「全世界を救う」「全人類を救う」という明主様のみ教えとみ心に深く深く関わっているのではないのでしょうか。ですから、明主様は「世界救世(メシヤ)教」の「教主」として世にお出ましになり、「メシヤ降誕」を宣明されたのではないのでしょうか。

また、明主様が世界宗教であるキリスト教との関わりについて述べておられるということも、「メシア」と関わっていることであり、「メシア」にある救いを全世界に伝えるとのお心によるものと拝察されます。

「教団方針」には、このように記されています。

私は、明主様が、ご在世中の最後にお示しになった教団は「世界救世(メ

シヤ)教」であるにもかかわらず、明主様にお使いいただく専従者として、布教師として、信徒として、この「世界救世(メシヤ)教」の開教に込められた明主様のみ心を、今日まで充分にお受けしてこなかった自らの姿を認めざるを得ません。

私共は、「世界救世(メシヤ)教」に込められたみ心について、また、明主様をご在世中の最後にメシアとして新しくお生まれになったことについても、さらには、そのことを「メシヤ降誕仮祝典」を通して多くの信徒と共に祝いされたことについても、そのほんの一端しか見つめてこなかったことを、今、謙虚に認めさせていただき姿勢が大切ではないでしょうか。

私は、今日までの自らの姿について、明主様に対して誠に申し訳ないことであると思わせていただき、悔い改めさせていただき思いをもって心からお詫び申し上げます。

そして、同時に、神様が今、大いなる赦しをもって、教主様のご教導を通して、「世界救世(メシヤ)教」開教や「メシヤ降誕」に込められた明主様の全人類へのメッセージに気付かせてくださったことに、心より感謝申し上げます。

私共①之光教団の信徒は、神様が、「メシアの御名」にある赦しをお受けになった明主様を通して、人類全てを神の子たるメシアとして新しく生まれさせるといふ、明主様をご在世中の最後に新しくみ教えくださった本当の「天国の福音」に目覚める時を迎えているのではないのでしょうか。

私共は、神様が、教団浄化の中から、今、教主様を通じて顕してくださった“明主様の真実、を、本当の救いである“神の子たるメシアの道、を、人類の先駆けの一人として、素直に、謙虚に、心からの感謝をもってお受けさせていただきたいと存じます。

今、この“明主様の全く新しい救いの福音、である“神の子たるメシアの道、に目覚めさせていただいた私共は、明主様と共にあるメシアの御名にあつて、全てを主神に帰し、お返しし、委ねさせていただき“想念の御用、を大切な信仰実践としていただいています。

そして、その営みの中心に、「光のお言葉」「誓いの言葉」「祈りの言葉」の三つのお言葉をいただいています。

「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」も、聖地や布教所への参拝も、献金奉仕をはじめとするさまざまな奉仕も、また感謝の慰霊も、さらには、日常生活におけるさまざまな事柄も、全てのご神業奉仕は、三つのお言葉を中心とした“想念の御用、にお使いいただく大切な営みであります。

私共は、「メシアの御名」にある赦しに結ばれた天国人として、いつしか

なる時も“想念の御用、をもって、全てのものと共に天国に立ち返らせていただく大切な務めを、明主様から託されているものと存じます。

全てのご神業奉仕、その一つ一つの中心に“想念の御用、がある、私共は、このご神業奉仕への姿勢を忘れることなく大切にさせていただきたいと思えます。

新たに迎えた本年も、私は、全国の全ての専従者、信徒の皆さまと共に、燦然と輝く「大光明」のご神体のもと、まず自らが“神の子たるメシアの道、をより一層お受けし、この「天国の福音」を一人でも多くの方に宣べ伝えていく“全く新しい布教、の道を、大いなる希望を胸に歩ませていただきたいと存じます。

そして、私共一人一人のうちに、最初から、今も、そしてこれからも、永遠に存在する「始まりの天国」という本当の故郷を思い出し、私共のうちに燦然と輝いておられる神様のみもとに立ち返り、「天国の家族なんだよ」とおっしゃってくださる神様の愛と赦しのみ心を、全身全霊にお受けさせていただき一年とさせていただきますよう。

終わりに、今月全国全ての布教区で、新たな年を迎えての「信徒大会」が開催されます。

私共は、本日いただきました教主様の「新年ご挨拶」を、先入観にとらわれず、どこまでも真実を求めようとする“実事求是、の思いをもってお受けし、「信徒大会」を輝かしい新たな年のご神業奉仕のスタートとさせていただきますよう。

今年も一年を通して、皆さまの日々の生活の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますよう心よりお祈り申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

本年も、どうぞよろしくお祈り申し上げます。

ありがとうございました。